

日蓮大聖人御書全集

あんこくろんおくがき

安国論奥書

新版
46

安国論奥書

ぶんえい ねん ぶんえい ねん ぶんえい ねん

文永6年（'69） 12月8日 48歳

ぶんおうがんねんたいさいかのえさる

かんが しょうか はじ

文応元年太歳庚申これを勘う。正嘉にこれを始めてよ

ぶんおうがんねん かんが おわ

り、文応元年に勘え畢わんぬ。

い しょうかがんねんたいさいひのとみはちがつにじゅうさんにち いぬいのこく おおじしん

去ぬる正嘉元年太歳丁巳八月二十三日、戌亥剋の大地震

み かんが のち ぶんおうがんねんたいさいかのえさるしちがつ

を見てこれを勘う。その後、文応元年太歳庚申七月

じゅうろくにち やどやぜんもん ふ こさいみようじのにゆうどうどの

十六日をもつて、宿屋禅門に付して故最明寺入道殿に

たてまつ のち ぶんえいがんねんたいさいきのえねしちがついつか だいまようじよう

奉れり。その後、文永元年太歳甲子七月五日、大明星の

とき わざわ こんげん し ぶんおうがんねんたいさいかのえさる

時、いよいよこの災いの根源を知る。文応元年太歳庚申よ

ぶんえいごねんたいさいいつちのえたつのちのしょうがつじゅうはちにち

いた

きゅうかねん

り文永五年太歳戊辰後正月十八日に至るまで、九箇年

へ

さいほう

だいもうここく

わ

ちよう

おそ

よし

を経て、西方の大蒙古国より我が朝を襲うべきの由、

ちようじよう

わた

どうろくねん

かさ

ちようじよう

わた

牒状これを渡す。また同六年、重ねて牒状これを渡す。

すで

かんもん

かな

じゆん

おも

みらい

既に勘文これに叶う。これに準じてこれを思うに、未来も

しよ

しるしあ

ふみ

またしかるべきか。この書は徴有る文なり。これひとえに

にちれん

ちから

ほけきよう

しんもん

いた

かんのう

日蓮が力にあらず、法華経の真文の至すところの感応か。

ぶんえいろくねんたいさいいつちのとみじゅうにがつようか

うつ

文永六年太歳己巳十二月八日、これを写す。